

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
69

振興協議会だより

〔発行日〕令和6年10月29日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



第14回日本ジオパーク全国大会・下北大会へ参加しました

8月30日～9月1日まで、青森県下北半島にある下北ジオパークにて第14回日本ジオパークネットワーク全国大会・下北大会が開催されました。

苗場山麓ジオパークからは、会長、ガイド1名、専門員1名、事務局員3名の計6名で参加して参りました。

1日目は、全国のジオパーク担当者が集い、運営会議、事務局長会議が開催されました。日本ジオパークネットワークのワーキンググループからの報告を受けた後、再審査の意義、あり方をテーマにグループワークを通して、意見交換が行われました。

開会式では、地元の伝統芸能も披露され、「わたしたちの海」をテーマにパネルディスカッションが行われました。続いて大交流会が開かれ、鏡開きや大間のマグロ解体ショーなどが披露され大盛況の中、1日目が終了しました。

2日目は、巡検やポスターセッションが行われました。地域の子どもの発表なども行われました。巡検では、有名な恐山もジオ的視点で見ると、火山活動によるカルデラ湖があり、植物がほとんど生えていないゴツゴツした溶岩が広がり、そこでは、硫黄臭がたちこめる様子が広がっていました。先人たちは、この風景を見てあの世を想像したとのことに納得する景観が広がっていました。

3日目は、分科会が開催されました。参加した5人が、それぞれ「ジオパークのいろは」、「青少年教育施設での活動」、「ガイド交流」、「実験の活用」、「展示手法」のテーマに分かれて参加しました。

また、能登半島地震に対して、北陸に位置するジオパークから「能登半島地震の記憶継承に関する共同声明」も発表されました。苗場山麓ジオパークも地震災害を経験していることからこの共同声明に参加しました。

台風の影響で参加できなかったジオパークもありましたが、大変規模の大きい素晴らしい大会でした。大会を運営された下北ジオパークの皆さんの準備、運営、おもてなしに感謝申し上げます。

閉会式では、来年度の開催地が北海道の十勝岳ジオパークとなることも発表されました。会場全体で、主催者からのコールで「来年は、北海道にいくぞ!」と声を挙げて、全国大会が閉幕しました。

全国大会は、全国のジオパーク関係者と意見交換や情報共有を行い、より良いジオパークとして活動していくために研鑽を深めることが出来る場です。来年度も参加し、苗場山麓ジオパークの活動をPRしていくとともに、各地のジオパークの魅力や思い、取り組みを改めて発見し、今後の取り組みに生かしていきたいと思ひます。



開会式



大交流会



日本三大霊場の一つ「恐山」



分科会「ジオパークのいろは」



第6回 苗場山麓ジオパーク研究コンクール 今年も作品が出品されました

苗場山麓ジオパーク研究コンクールは今年度で6回目となります。出品数は、27 (19) 点、関わった児童生徒の数は、町村小学校 37 (18) 人、津南中学校 1 (0) 人、津南中等教育学校 75 (73) 人、計 113 (93) 人という結果でした ((数) は前年度)。参加者数が若干増えました。中学校の参加が数年ぶりにあり、よかったです。近年、夏休み中の自由研究も課題として課せられなくなる傾向にある中で、参加者数が持ち直したことはありがたいことです。

今年度は、申し出のあった1小学校、1中学校には事前にコンクールの相談会を実施しました。その効果も表れたようです。

さて、今回会長賞の受賞者は、津南小学校5年生の高橋ももさんです。研究テーマは、「私が見た河岸段丘」でした。津南の河岸段丘は9段あるということを学んだあと、実際に河岸段丘のよく見える場所を探し、確認し、写真で記録を取り、模造紙にしっかりとまとめることができました。

また、副会長賞には、栄小学校3年生山田夏穂さんの「栄村の方言調べ」が選ばれました。ふだん何げなく聞いている「カナキッチョ」という生き物の名前は、方言なんだということから、あいさつ「あちゃね」や行動の中のことばが方言だということに気づくことができました。合わせて日本語の共通語についても知ることができました。

入賞者の研究テーマを見ると、栄小学校5年生山田駿介さんの「苗場山の植物」、上郷小学校5年生八重沢光さんの「ジオパークの名所6選」、津南小学校4年生江村陽葵さんの「保存民家の模型」、芦ヶ崎小学校5・6学年の共同作品「自然いっぱい龍ヶ窪」、津南中等教育学校1学年の「探究レポート」など、ジオパークのジオ・エコ・カルチャーに関する作品が目を引きました。

もとより、小学校からの要望を受けて出発したコンクールです。今後も多くの作品の応募を願っています。



審査会の様子 (津南町文化センター 9月19日)

第6回 苗場山麓ジオパーク研究コンクール 審査結果				
賞 名	研究題名	名 前	学校名	学年
苗場山麓ジオパーク 振興協議会会長賞	私が見た河岸段丘	高橋 もも	津南小学校	5
苗場山麓ジオパーク 振興協議会副会長賞	栄村の方言調べ	山田 夏穂	栄小学校	3
津南町教育長賞	苗場山麓ジオパーク名所6選	八重沢 光	上郷小学校	5
栄村教育長賞	苗場山の植物	山田 駿介	栄小学校	5
苗場山麓ジオパーク推進室長賞	自然物と100円ショップのもので作った阿部家(栄村)	江村 陽葵	津南小学校	4
苗場山麓ジオパーク賞	自然いっぱい龍ヶ窪	13名	芦ヶ崎小学校	5・6
苗場山麓ジオパーク賞	苗場山麓ジオパーク探究学習レポート集	75名	津南中等教育学校	1
苗場山麓ジオパーク特別賞	なじもんで作った土器と自分の家で作った土器	中澤 航生	津南小学校	1



会長賞 私が見た河岸段丘



苗場山麓ジオパーク・学生対象フォトバスツアー2024

第4回目となる学生さん対象のフォトツアーを8月7日(水)に開催しました。新潟県からは十日町高校から12名、十日町総合高校から3名、津南中等教育学校から1名、松代高校から1名、長野県からは下高井農林高校から1名の計18名の学生さんに参加いただきました。

過去2回とも土砂降りの中開催しており、「今年こそは!」と願っていましたが、当日はあいにくの雨予報が…。新潟の橋50選「前倉橋」や柱状節理「布岩」など予定どおりにフォトスポットを回ることができましたが、最後の撮影地「見玉公園」でついに土砂降りに…。なんとか「石落とし」を撮影でき、急いでバスに逃げ込みました。

現在、第10回フォトコンテストの作品を募集しています。大勢の学生さんから力作が出されることを期待しています。



前倉橋



布岩山



石落とし

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

高波 太一さん



苗場山と長靴 (ガイド No.66 高波 太一さん)

苗場山には長靴が欠かせない。登った方はそれを感じるだろう。6月の雪解け、梅雨、台風時期、秋雨と年中道は泥^{ぬかる}んでいるからだ。いつ行ってもどこか水気を含んでいる。ブナの林床で、ダケカンバの下で、森林限界で、オオシラビソの間で、山頂台地で。その名が現す神々の田圃を山全体に纏っているようだ。

苗場山らしいと言えるこの泥^{ぬかる}んだ道を行く。小赤沢ルートなら五合目付近が顕著だが、赤倉分岐手前の茂みや山頂台地に出てもなお泥^{ぬかるみ}はある。祓川ルートなら神楽峰手前までがそうだ。

刈払い前の早朝などは朝露で濡れたチシマザサからたっぷりと水を受ける。その点、長靴ならば気にならない。近所のホームセンターで1,980円くらいのを買う。大体2ヶ月もすると指の付け根の屈曲部でゴムが割れて買い替えとなる。鉄芯入りはおすすめしない。ピン付きも長くは保たない。安いものはゴムが硬く、滑るのでいけない。防水地下タビも試してみたが防水性がかなわない。高級なものを買っても結局は同じ所が破ける。一度破けたら水の浸入は止められない。諦めて新しいのを買いに行く。所詮長靴であるから気楽に捨てられる。

歩^ほ荷^{かり}や刈払いで何度登っただろうか。

泥^{ぬかるみ}の道は段差の一步を大きくすれば内股が汚れる。勢いを付ければ泥が跳ねる。足裏の角度が悪ければ滑る。しぜん、それを避けた歩き方になる。小股で少しづつステップを刻む。足首を柔軟に使いスリ足のように地形に合わせ歩を進める。

積雪期もワカン（輪かんじき）と合わせて履いていく。ウレタンの厚い二重のタイプが乾かし易くもあり、最適である。かかとの出張りが大事だ。前方の紐止めは、ラッセルですねに当たるのですぐに外す。横に付けられれば良いと毎度思う。

この靴を履けば苗場山の何処でも歩いて行ける。季節、天候を問わずあら



苗場山の池塘

ゆる表情に出会える。心に浮かぶのは山頂台地の緑と湿原。揺れるワタスゲ、水面に丸い輪をつくるホタルイ、小さなトキソウ、ナエバキスミレの強い意志。そして今は無き小屋で見ていた日の出。屋根に登り眺めた天の川。

苗場山の持つ魅力は、その水に潤んだ全域にあると感じる。4期にわたる火山活動、その最後の流れが雄大な神苑を形造った。8000年をかけて分解されず重なった植物の遺骸達は眠り泥炭となり地表を覆った。湿原内でも高層となっている部分に触るとフカフカとスポンジのように水を受け止めている。無数の窪みは池塘となり空を反射している。大雨が降っても溢れる所を見ないのは不思議の一言である。

苗場山に行くなら長靴を履いていく。それはこの柔らかな水と泥^{ぬかるみ}の山の感触を足裏で余す事無く感じ取る為でもあるのだ。



ブナ林の登山道



ナエバキスミレ

お知らせ

11月2日(土) 9:00~12:00 苗場山麓ぶらり旅 場所: 志久見川上流地区

11月9日(土) 7:00~18:00 ジオパーク秩父視察 内容: 河成段丘、縄文土器群など 場所: 埼玉県秩父市 ※認定ガイド対象

11月30日(土) 9:00~12:00 LNTワークショップ(子ども・中学生以下) 内容: 焚き火料理 場所: さかえ倶楽部スキー場



突撃しよう！となりのジオ便り～桜島・錦江湾ジオパークからこんにちは～

【桜島・錦江湾ジオパークとは】

桜島・錦江湾ジオパークは、地球や大地の魅力・特性を活かした観光・交流の推進、自然科学への認識の向上、鹿児島への愛着や誇りを醸成することを目的として、2013年9月に日本ジオパークの認定を受け、2021年2月には、桜島を中心とした錦江湾奥部と鹿児島市・始良市・垂水市の全エリアへのエリア拡大が認定されました。

当ジオパークのエリアは、鹿児島県のおよそ中央に位置する始良カルデラを中心とする地域です。当地域は、100万年ほど前から巨大噴火を繰り返してきた活発な火山地域であり、多彩な火山地形を有し、桜島の噴火など日常的に火山の大地を体感できる世界有数の場所です。また火山活動が地形や自然、歴史、文化、産業、人々の暮らしに大きな影響を与え、深くつながっていることから、「火山と人と自然のつながり」をメインテーマとし、ジオ資源等を観光客や地域住民にわかりやすく伝えるために6つのストーリー（ジオストーリー）で紹介しています。

【桜島や錦江湾はどのように誕生したか】

鹿児島で約30,000年前に、今の桜島の噴火の100万倍位の巨大噴火が起こりました。

噴出したマグマの量は、県全土を約60mの厚さで埋め尽くすほどでした。マグマが出た後の地面は凹み錦江湾奥部にあたる始良カルデラが誕生しました。鹿児島の地には、軽石、火山灰、火山ガスが600℃以上の高温で混ざり合った火砕流がなだれ込み、たった1週間で山も谷も埋め尽くして、平らな地形となりました。その後、川にけずられて残った地形が現在の鹿児島のシラス台地となり、始良カルデラに海水が流れ込み、現在の錦江湾奥部が形作られました。

約26,000年前には、始良カルデラの南端で噴火が始まり、まず北岳ができ、その後、噴火口がずれて南岳ができ、2つの火山体が連なる桜島をつくりました。大正噴火（1914年）までに17回の大噴火を経て現在の山容となりました。

【多彩なツアーや体験プログラム】

当ジオパークでは、始良カルデラを1周するバスツアーや始良市重富海岸で干潟の生き物を観察するツアー、錦江湾をクルーズし、垂水市で養殖カンパチにえさやり体験ができるツアー等、始良カルデラの魅力を満喫できる各種ツアーや体験プログラムを企画しています。

当ジオパークには、大昔の巨大噴火から現在につながる大地の歴史や、この地の人々がどのようにして火山と共に生きてきたか、またそのつながりから生まれた産物や史跡など、見どころ、遊びどころ、学びどころがいっぱいあります。ドキドキの体験ツアーや美味しい、楽しいプログラム、ここならではの特産品や郷土料理などを用意して皆様の来訪を心からお待ちしております。



桜島・錦江湾ジオパークのエリア



名勝仙巖園から望む桜島



ジオラフティングを経験して

苗場山麓は、日本一の大河、千曲川・信濃川が流れています。川幅が狭く水の流れが急な所もあり、長年削り取られた地層が断崖となって露出しています。その合間を縫いながら、ラフティングボードに乗って、大地の成り立ちを川面付近から眺めよう。というのがジオラフティングです。川岸は滑りやすい岩場であったり、草木が生い茂っていることから、見どころである地層のところには、陸からだとなかなか近づけません。カメラのズーム機能を使ってみることもできますが、質感なども触ったり間近で見るとは勝てません。

船頭の岩館氏自身も、ガイドNo.65としてジオガイドの資格を持っています。乗ったお客さんにラフティングの楽しさと、この特異な地形を紹介してくださっています。講師だった仲野専門員との息もばっちりです。なによりも川を下っているだけで、ワクワクドキドキで楽しいですよ。

ラフティングって危なくないの？大丈夫なの？という質問に、今までの実績で小学生以上から最高齢は93歳だとか。むしろ、船の上よりも、乗船するまでと、下船するときのほうが滑りやすく危険なのかもしれませんね。

ぜひ子どもたちの学年行事や、地区子ども会での行事にいかがでしょうか？一度体験するとやみつきになりますよ。



斜めになった地層を間近で見学